

3 図書館協議会による図書館運営全体に対する評価（委員長とりまとめ）

全体としては、利用者が気持ちよく利用することができる図書館であり、図書館業務に対する図書館職員の真摯な取り組みに敬意を表する。次年度以降のさらなる発展に向けて、以下の事項について指摘する。

（1）予算削減について

次年度予算における資料費の削減は、大変残念なことである。この状況が長期化・固定化しないように、図書館協議会としてできる限り応援したいと考えている。平成30年度に補正予算として資料費が追加されたことに対しては、感謝申し上げる。

（2）基礎的サービス評価について

各指標がA評価となることが望ましいことは確かであるが、評価の意義は、目標値に達しなかった新規登録者数（「C」評価）、個人貸出冊数（「B」評価）について、次年度に向けた取組みを具体的に考えることにあるといえる。ここ数年減少傾向にある新規登録者数について、県職員に対する研修会・説明会や出前型公開講座の会場での広報活動等は評価されるが、さらなる取組みを期待したい。また、新潟市以外の新規登録者数がどの程度増加したかなど、総数には表れにくい実績などがあれば提示していただきたい。「引き続き工夫しながら、広く県内全域の新規利用者を開拓していく」という図書館の考え方に賛同する。

（3）「県立」図書館としての取組みについて

「県立」の図書館として、地理的に離れた地域の県民に対してどのようなサービスが提供できるかを、市町村立図書館等との連携により追求する必要があると考える。11月に上越市で開催された「秋の読書週間記念事業」のように、県立図書館主催の事業を市町村立図書館等との連携のもとに各地域で実施する取組みを今後も期待する。また、「越後佐渡デジタルライブラリー」による新潟県関係歴史資料のデジタル化と公開は、県立図書館としての重要な役割であり、継続的な取組みが求められる。